

旧ポルトガル領アフリカ 独立50周年 講演会

旧ポルトガル領アフリカ独立の意味とは？

半世紀を経たいま、ポルトガル語圏各地からあらためて考える

講演者

市之瀬敦（上智大学 外国語学部ポルトガル語学科 教授）

「独立から50年—

ギニア・ビサウとカボ・ベルデの現状が映し出すもの」

網中昭世（アジア経済研究所 地域研究センター

アフリカ・ラテンアメリカ研究グループ長）

「モザンビークの国家建設—

独立、民主主義と権威主義の狭間」

西脇靖洋（静岡文化芸術大学 文化政策学部国際文化学科 准教授）

「ポルトガルと旧アフリカ植民地諸国—

人の国際移動の観点から」

矢澤達宏（上智大学 外国語学部ポルトガル語学科 教授）※兼司会

「外からの黒人運動鼓舞と内からの人種主義告発—

ブラジル社会にとっての旧ポルトガル領アフリカ」

日程：11月21日（金）17:30-19:30

会場：上智大学四谷キャンパス 2号館309号室＋オンライン

* 会場参加は事前申込不要、**オンライン参加のみ事前申込必要**（詳細は裏面）

独立の英雄S.マシェルの像
(モザンビーク、網中撮影)



植民地期虐殺犠牲者に捧ぐモニュメント
(ギニア・ビサウ、矢澤撮影)



2024年選挙後の抗議運動
(モザンビーク、網中撮影)



旧ポルトガル領アフリカの独立は、当該アフリカ諸国はもちろんのこと、宗主国であったポルトガル、さらにはブラジルに対しても少なからぬ影響を与えた。ただ、半世紀という時が過ぎ、時代背景や国際環境も変わり、その意味合いは多かれ少なかれ変化しているのではないだろうか。アフリカ、ポルトガル、ブラジルから、半世紀前の独立がもたらした影響とその意味合いの変化について、あらためて問うことが本企画の趣旨である。



申込方法：

オンライン参加の場合は、
以下のリンクもしくはQRコードから
ご登録ください。

申込締切： 11月19日（水）

※11月20日（木）に
オンライン参加申込者宛に
ミーティング情報を送信します



事前登録用リンク：

<https://forms.gle/wnTnNEbJqmtGsbQNA>

お問い合わせ先： 上智大学アジア文化研究所 i-asianc@sophia.ac.jp



イレ・アイェ発行の小冊子
(ブラジル、矢澤撮影)



博物館に収容された植民地期の像
(サントメ・プリンシペ、矢澤撮影)

独立の英雄A.カブラルの博物館入口の幕
(カボベルデ、矢澤撮影)